

Web メールを利用したレポート提出に関する考察
Consideration of Reports Submitted by Students via Web-mail

渡邊 誠

Makoto Watanabe

実務実習部門・医薬品評価学

E-Mail:watanabe@my-pharm.ac.jp

1. はじめに

明治薬科大学、薬学科では3年次に約300人全員を10名×30班に分けて、「薬学教育コアカリキュラム」の事前実務実習の項で指定されたテーマについて、KJ法を用いてSmall Group Discussion（以下、SGD）演習を行っている。KJ法の詳細については省略するが、最後に書記に指名された学生がレポート（報告書）を提出することになっており、このレポート提出はメールに添付させて提出させている。今回、2010年に学生がレポート提出に使用したメール188通について分析し考察を行ったので報告する。

2. 学生から送られたメールの分析

この方式でレポート提出は、今年で3回目である。レポートの添付忘れは7通で、件名が無いものが25通であった。宛名についても、無いものが110通と59%であった。宛名については、敬称が無いものが7通、「様」が2通で、正しく書かれていると思われたのは79通、41%であった。また、宛名に教員のメールアドレスのみが書かれたものは13通あった。さらに差出人の記載のないものが11通で、署名を作成して挿入してきたものは、わずかに6通であった。

3. 学生から送られたメールの実例

A. 差出人も本文のない例（1通）

送信者： "M■■■■■■ARI" <y0■■■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月21日 9:39
添付： 患者本位のファーマシューティカルケア10月19日6班.docx
件名： SGD実習 10月19日 6班

B. 件名にすべてを託した例（7通）

送信者： "MU■■■■■■SAYA" <y0■■■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月8日 10:59
添付： 処方箋の鑑査の意義とその必要性について討議する.docx
件名： 実習 SGD 27班 Aクラス 08■■■■■■ 眞■■■■■■也

※ 件名に学籍番号と氏名まで書かれている。

C. 多くみられた例（101通）

送信者： "KI■■■■■■HEI" <y0■■■■6@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月6日 23:59
添付： SGD1.docx
件名： SGDレポート
菊■■■■ 08■■■■番 A組 10班 平成22年10月6日

※ 宛名と本文が無く、氏名、学籍番号などが書かれているだけのメール。

D. 不適切な挨拶分

送信者： "KON■■■■■■KO" <y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月14日 0:19
添付： SGD27班3年A組0■■■■番■■■■恵子.docx
件名： SGDのレポートです。
夜分失礼します。

3-A 08■■■■ 止■■■■子です。
10月12日、SBO62 リスクを回避するための具体策を提案する。のレポートを提出いたします。
27班です。
よろしくおねがいします。

※ 「夜分失礼します」という挨拶分は、メールでは不適切。

E. 敬称が不適切な例

送信者： "IC■■■■■■SA" <y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月6日 18:34
添付： 3年第1回SGD 3班.docx
件名： 3年第1回SGD 3班
渡辺様

3年 第1回 SGD 処方箋鑑査の意義と必要性について 10月6日

y08■■■■番 3班 市■■■■沙

※ 一応大学の教員に対する宛名なので「様」は不適切。ちなみに「様」は2通、敬称なしは87通であった。

F. 宛名がアドレスの例（13通）

送信者： "YA■■■■■■ATOMI" <y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先： <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時： 2010年10月8日 15:29
添付： 101006 SGD.doc
件名： SGD報告書
watanabe@my-pharm.ac.jp
SGD報告書(H10.10.6)
3A 08■■■■B 28班 I■■■■美

※ 宛名がメールアドレスになっている。

G. 宛名さえあれば完璧だった例

送信者: "KI■■■■ORI" <y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先: <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時: 2010年10月15日 13:06
添付: SGD5回目レポート-28班.docx
件名: SGDレポート28班
SGDのレポートです。
よろしくお願いします。

B組 08■■■■番 木■■■■り
28班 10月14日

明治薬科大学
薬学部 薬学科 3年Bクラス
木■■■■り
y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp

※ 署名が挿入されていたのは、わずか6通であった。

H. 署名はないけど好感が持てた例

送信者: "S■■■■KO" <y0■■■■@std.my-pharm.ac.jp>
宛先: <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時: 2010年10月8日 2:00
添付: SGD1-13班.docx
件名: SGD-13班 1回目レポート
医療品評価学
渡邊誠先生

薬学科3年生実習 SGD1回目(10月6日分)の13班のレポートを提出させていただきます。
どうぞよろしくお願いいたします。

3年A組 学籍番号:08■■■■ 13班
10月6日のSGD報告者:佐■■■■子

3. 考察

明治薬科大学の学生は、1年次にアカウント講習と情報処理演習を受けており、PCを入学時から使用している。従って、その扱いには慣れていると考え、2008年の演習では「レポートはメールに添付で提出」とだけ指示を行った。この時は、行方不明のメールが続出して学生と教員が「送った・受け取っていない」のやり取りが繰り返された。その時の原因は、基本の「my-pharm.ac.jp」のドメインに学生はさらに「std.」のサブドメインがつくことを学生も教員も知らないため学生に正確なメールアドレスの指示ができずに、多くのメールが「std.my-pharm.ac.jp」で送られていたことが判明し解決した。翌2009年で

は、送付先のメールアドレスを実習書に明記して、さらに事前の説明でも念を押したため、行方不明になったメールは激減した。今回は、実習書に「提出アドレス watanabe@my-pharm.ac.jp」、「メール本文には、宛先、件名、発信者(報告者)の名前、学籍番号、組、班、SGDの日付を必ず書き、レポートの添付を確認してから、送信すること。」と明記したため、ある程度の形式のメールに添付されてくることを期待したが、結果は、2.で示したように不完全と思われるメールが多かった。

現在の学生は、ほとんどが携帯電話を保有し、メールのやり取りは携帯の使用が多と思われる。この携帯メールでは、通常登録してある相手との交

信なので、件名、宛先、差出人は省略する場合がほとんどであり、今回の場合も携帯メールに慣れてしまった影響と考えられた。

そもそもメールについては、IT や携帯の普及に応じて自然発生したため、その作法には特に決まりはなく、通常の手紙の簡略した形式とされる。しかしながら、細かい定めはなく、学内でも教職員の間に統一された様式または書式はない。しかし、通常、件

名は内容がすぐにわかるように書き、宛名で始まり、本文、差出人(可能であれば署名の挿入)の順で書き、本文の終わりには「よろしく お願いします。」などを添えて書くのが一般的に望ましいとされる。そこで、最後に私から私に最低必要なことのみを記入したメールの例を作成し以下に示した。是非、IT などの教育において参考にさせていただきたい。

I. 最低限の必須項目を満たすメールの 1 例

差出人: "渡邊 誠" <watanabe@my-pharm.ac.jp>
宛先: "WATANABE Makoto" <watanabe@my-pharm.ac.jp>
送信日時: 2011年2月18日 10:12
件名: メールの様式について
医薬品評価学
渡邊先生

メールの様式(書式)の例を添付の文書にて送信します。

よろしく お願いします。

〒204-8588東京都清瀬市野塩2-522-1
明治薬科大学
医薬品評価学 渡邊 誠
E-mail: watanabe@my-pharm.ac.jp
Tel/Fax: 042-495-8657

4. 謝 辞

今回の報告をまとめるに当たり、協力を頂きました
明治薬科大学、情報チームに感謝します。